

研究テーマ

現代的教育課題への実技教育による研究事業

所属・氏名

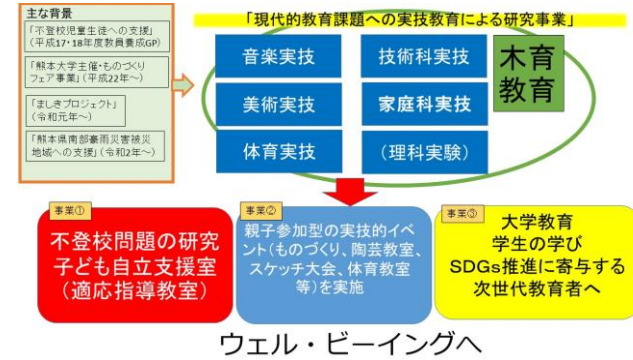
教育学研究科 教授 松永拓己

目的とするSDGsゴール



1. 研究の概要

現代的教育課題に対し、実技の有用性を駆使した実践研究である。教育学部実技教育力等を生かし、不登校や災害支援教育活動やものづくり・木育の教育的取組等に実技系能力を活用する。内容は主に3つの取組を行う。各地の子ども自立支援室等と協力し、大学生の現場実践育成にも役立つ研究・教育を一体とする研究事業である。



2. 研究の目的

SDGs4への教育学部実技系の取組の関連を図り、各知見能力の拡充を行い、熊本の子ども達への教育支援充実をめざす。それにより、ダイバーシティ・インクルージョン実現社会へのさきがけとなる教育実践的取組となす。SDGs12,SDGs15への技術科木育の実践研究の深化を図る。それらを基として新しい教育者を育てる大学教育の内容を実践研究する。

3. 今年度実施した研究

・本年度中の研究の取組

研究事業①・・・不登校・災害地教育支援への実技系取組 (実験系・理科含む)

熊本市教育委員会にて19回実践 (技術科6、美術4、家庭科2、音楽2、体育2、理科3)

山鹿市教育委員会にて3回 水俣市教育委員会にて2回 益城町教育委員会にて3回

熊本市不登校オンライン授業4回

計31回

研究事業②・・・ものづくり等参加型事業実施

ものづくりフェア9回 参加2361人 (熊本市、八代市、長洲町、天草、人吉、山口、佐賀) 2月17日時点

スケッチ大会2回 (熊本大学会場 人吉市会場) 陶芸教室1回 (人吉市) 木育講座6回

研究事業③・・・大学生育成プログラム実践

不登校、各地支援各種イベントへの大学生の支援者としての参加。教員と大学生の一体的支援実践実施。

・上記の取組によって生まれた成果 (SDGs達成へどのように貢献するのか)

- ①SDGs4へ対する熊本大学独自の総合実技教育スタイル確立
不登校・被災地域と密着連携し必要とされる教育支援把握
- ②SDGs12,SDGs15へ対するものづくり・木育教育の役割理解
- ③各教育委員会・企業等との連携強化
- ④大学生の実技教育能力育成と実技系教育のフォーム形成



・今後の展望

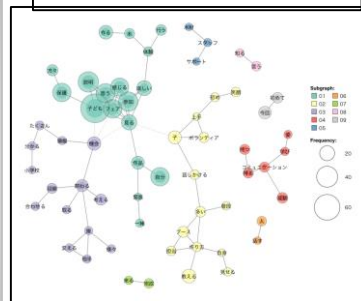
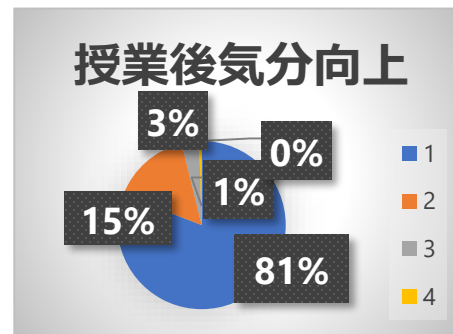
本事業の継続を行うと同時に、地域と密着活動することで見えてくる新支援の在り方を発展的に実践継続。

今後、新たな取組内容である熊本大学と熊本市教育委員会と不登校生徒を遠隔で結ぶオンライン授業は開発を進め、現場との不登校教育での新展開が期待できる。

木育においては技術科を中心に継続し森林業種との継続的協力研究開発を行う。

教育学部実技系講座の教員資質育成として継続的に取り入れることで、SDGs理念を持って生れる新教員達が子供たちに教える実践経験の習得を展望する。

大学生の感想



次への意欲度 高1～低5

